

# 総合教育会議記録

## 1. 日時

令和8年1月21日（水曜日）

午前11時00分開会、午後0時15分閉会

## 2. 場所

条里南庁舎会議室

## 3. 出席者

横手市長 高橋 <sup>だい</sup>大

横手市教育委員会

教育長 伊藤 孝俊

教育委員 二階堂 <sup>まもる</sup>衛

教育委員 泉川 国子

教育委員 中村 千寿子

教育委員 加賀谷 長吉

## 4. 説明のため出席したもの

総務企画部総務課長 田中 弓子

教育総務部長 近江 秀和

教育指導部長 赤川 美和子

教育総務部次長兼教育総務課長 木村 智子

伝統文化課長 石田 正明

図書館課長 高橋 秀明

図書館課主幹兼生涯学習課主幹兼生涯学習館館長 木村 雅美

生涯学習課長 佐藤 直志

スポーツ振興課長 進藤 <sup>ともりの</sup> 倫啓

学校教育課長 佐藤 <sup>たかのり</sup> 隆徳

学校給食課長 遠藤 <sup>よしひと</sup> 督士

教育指導課長 高橋 夏子

## 5. 事務局

総務課課長代理兼文書法規係長 小松田 剛

教育総務課課長代理兼教育総務係長 <sup>おだしま</sup> 小田嶋 あけみ

教育総務課教育総務係主査 佐藤 拓

教育総務課教育総務係主査 多賀谷 <sup>あやこ</sup> 紋子

## 6. 会議に付した事件

- (1) 横手市の教育に関する大綱について
- (2) 令和8年度教育行政方針（案）について
- (3) その他

## 7. 会議の経過と結果

開会 午前11時00分

### ●田中総務課長

ただ今より令和7年度横手市総合教育会議を開催します。

この総合教育会議は、市長と教育委員会により構成されるものです。

本日の終了時刻は12時頃を予定しておりますので皆様のご協力をお願いいたします。

開会にあたり、市長からご挨拶を頂戴したいと思います。

### ●高橋市長

総合教育会議に御多用のところ参集いただき感謝申し上げます。

平素、教育委員会の皆様におかれましては、教育行政の発展推進にご尽力いただいておりますこと、また様々な取り組みにご尽力いただいておりますことに、心から感謝申し上げる次第でございます。社会をしっかりと力強く前に進めて発展をさせていくには何よりも教育が基礎として大事だと思っておりますし、この世の中を良くも悪くするも教育次第と思っております。大事な要を担っている皆様には敬意を表する次第でございます。

さて、チャットGPT人工知能が共通テストの9科目で満点を獲得し、解答したすべての科目の成績が驚異的な結果となりました。去年は66%であり、今は90%後半となっている。相当な天才でない限り

この先端技術に人の脳では追いつかないということなのかもしれません。

我々がいくら努力してもオートバイのスピードには勝てない、鍛え抜かれたオリンピック選手であっても、いわゆる文明の利器には及ばない部分があります。早く移動するということにかけては機械の方が優秀でありますし、縫い物も今はミシンの方が上手に縫うでしょう。様々な分野で人がやっていた作業は、文明の利器によって、人がやるよりも上手にということの繰り返しでありましたが、頭脳という部分についても、そのような状況になったということでもあります。最新のテクノロジーをうまく我々が使いこなし、発展の力や豊かさに変えてきたということでもあります。AIに我々の頭脳が追い抜かれてしまったことを悲観せずに操られることなくいかに使いこなしていくのかがこれから大事であるということを実日の新聞にて痛感させられました。

このとおりの人口減少ですので、我々の地域はどうやってこれから教育に対して取り組んでいくべきか教育委員会の皆様は十分に考えていただいて、いろいろと政策に落とし込んでいただいているものと存じます。それはしっかりやりながらも、これからは心というものをもっと大事にして、人生哲学、社会哲学も大事にして世の中はどうあるべきか、自分はどうあるべきかと考えることを再度やっていくべきな

のかなと思うところでもございます。

トインビー(イギリスの歴史家・歴史哲学者)は『国が滅びるのは天変地異や戦争ではなく民族の歴史を忘れることである』と提言していました。終戦後、GHQにより教科書を黒塗りされてから80年という事で古来より続いてきた大事なものはその時点でだいぶ消されたものもあるでしょう。

家庭での口伝で伝えていった大事な部分も、現代は祖父や祖母と一緒に食卓を囲まず核家族化によって伝えられない状況であります。これはやはり滅びる方向にいきやすくだろうなと思ってしまいます。少子化や人口流出も、そういった部分が起因しているのかなと最近強く思うようになりました。

アダム・スミス(イギリスの哲学者、倫理学者、経済学者)が国富論という国を富ますための論文を書いたのが1776年でございます。アメリカの独立と同じです。

その国富論の前に、道徳感情論というのを出しています。経済的に国を富ます前に人の心や道徳というものに着眼し、まずはそこから手をつけて、国富ということであつたのだらうというふうに思います。経済的な合理性、テクニックを追求することも大事ですが、心の部分を忘れてしまうと大変な目に遭うということは、ある程度優秀な経済学者は、かつてから言っていたということです。

二宮尊徳(江戸時代後期の経世家、思想家)は、『道德なき経済は犯罪、経済なき道德は寝言』とも言いました。つまり、どちらも大事ですが、超利己主義、超合理主義で、自分のことしか考えない人ばかりであれば社会がもたないのかなというふうに思います。では、どうすればいいのかと言っても、なかなか人の心はすぐには変えられませんが、少しずつそういった部分にも気がついて、大事にして時間をかけて、社会をより一層良くしていく、民度を高めていくようにしないと、いよいよ滅びてしまうカウントダウンが来てしまうのかなと思います。

これは横手市だけではなく、東京や日本全体も同じだと思っています。横手は人の減り具合が最も苦境に立っている現状がございますので、滅んでなるものかということが一番真剣に考えないといけないところに住まわせていただいているということで、この苦境に抗う横手市民でありたいなというふうに思うところでございます。

とにかく教育は大事ということでございまして、皆様方のより一層のご活躍と忌憚のないご意見を頂戴し、いい会議にしていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

### ●田中総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育長からご挨拶を頂戴します。教育長よろしく申し上げます。

## ●伊藤教育長

皆さんお疲れ様です。今日は年に一度の市長をお迎えしての教育委員の皆さんとの話し合いができる日ということで、日頃から市長におかれましては教育委員会へのご理解をいただいておりますことをまずもって感謝申し上げたいと思います。

先ほどA Iの話が市長の方からございましたが、A Iが間違っただ部分というのが小説の中の登場人物の心情を想像し、言葉にして回答するというような部分や社会科においては「あなたはどう思いますか?」というような部分が、点数が足りなかったと言われておりました。

それは想像がつく範囲でありまして、それも完璧に100点を取られた日にはもう我々がいらないと宣言される日でもありまして、それとどう付き合うかというのは、これから学校教育にとっても社会の成り立ちにとっても非常に重要な部分ではあるなと思います。

そういった機器を有効に活用しながら、人間らしく生きていくということを、今の子ども達はしっかり学んでいかなければいけないのだろうなと思います。

ここにおられる我々は、小中学校、高校の時代は教員の言うことをまずは聞きながら勉強に勤しんだというスタイルの学習しか多分してこなかっただろうと思います。これからは自分の考えをしっかり持ち

ながら、興味関心に応じて、実態に合わせて学習ができる環境をどうやって作っていくか、感性の鋭い子はその鋭さを十分に活かせる学びをしなければいけないでしょうし、ゆったりと生きていくことが向いている子は、ゆったりと学べる環境が必要でしょう。子どもが主役になっている学校になっているかというのがこれから大きく問われる時代が来ているだろうと思って、今回の教育ビジョン、教育行政方針等にも自立的な学校経営、学校運営に焦点を当てながら、教育行政を考えていきたいと思いますというのを大きな提案事項として示しているところであります。

皆さんの様々な英知を結集して、横手の子どもが決して他に劣ることのないように、力強く成長できるように後押しを教育委員会全体でしてまいりたいなと思っているところであります。今日はぜひ忌憚ないご意見をお出しいただきながら、市長の考え方思いを酌みつつ、令和8年度がスタートできるようにしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## ●田中総務課長

ありがとうございました。議題の進行については、教育総務部長にお願いします。

### (1) 横手市の教育に関する大綱について

## ●近江教育総務部長

横手市の教育に関する大綱についてを議題とします。説明をお願いします。

### ●木村教育総務部次長兼教育総務課長

現在横手市の教育大綱および教育振興基本計画として位置づけている第3期横手市教育ビジョンが今年度末で終了することから、次期横手市教育大綱を定める必要がございます。これは、地方教育行政の組織および運営に関する法律により、教育大綱を定めることが必須とされているため教育委員会といたしましては、これまでと同様に、教育ビジョンを横手市教育大綱として位置づけたいと考えております。お手元に配付しております第4期横手市教育ビジョン(素案)をご覧ください。

【以下、[議題（1）資料]を基に説明】

### ●近江教育総務部長

横手市の教育に関する大綱についての説明が終わりました。皆様からご意見や質問、感想等でもいいので、何かあったらお願いいたします。担当課へのご質問ご意見でも結構です。

### ●伊藤教育長

教育委員会としてAIの対応をどうしていくか話し合いをし、一定の線を出しています。そのことについて教育総務部次長からお話をいただいでよろしいですか。

## ●木村教育総務部次長兼教育総務課長

最近の事例としてA Iを使って、いろいろなことを質問し生成された回答を得るという事を行われています。その中でたまたまですが、新聞報道で生徒同士の間でそのA Iを使った生成画像が問題になったというような事例がありました。A Iの使用につきましては、市としての方針が無かったため、自由に使える状況になっていましたが、取り扱いのルールを決めていこうということになり、国の指針を参考にA Iに関する横手市のルールを定めたところでございます。

こちらにつきましては、いずれ学校の方にも説明の機会を設けていきたいと思っておりますが、まずは生徒、教員、保護者の方々にも見ていただき、A Iのルールを提供していきたいと考えています。

## ●伊藤教育長

保護者の方には動画の提供も考えており、こういう注意をしてくださいというような啓発活動に繋がる動画も作成いたしました。年度末であります、教職員にそのことについてはお知らせをして、4月以降はその方針に基づいて、取り組むことにしております。さらに、申し上げますと一般のスマホや個人のパソコンで使用していくとA Iが入力された様々なワードを学習し、知らない間に個人情報を含めてA Iが学習してしまう可能性が非常に高く、個人情報が出回るという心配が一般のA Iにはあるため、小中学校で使うものについては市が配

布しているタブレットの中にあるA Iを必ず使うようにしています。学校で使うA Iは何が違うかと言いますと、個人情報等の余計なことを学習しない機能がついています。一般A Iは、何でも一つの情報として全部の処理を覚えていきますが、学校で使うA Iは選別をする機能があります。そのため、一般のA Iのように膨大に情報処理する必要のないA Iとも言えるのかもしれませんが。

無規則に世の中の流れに沿うような形で、まだまだ自分のことをしっかりできない子どもの力を便利にしていくだけのI C T教育ではうまくないだろうということで、教育情報係の方で勉強していただき、対応策を学校に示していくということであります。

### ●高橋市長

A Iは「あなたの言っていることはおかしい」と否定してくれませんが、肯定的に受け止めて回答を出してくれます。それも問題であると思います。A Iの欠点と利点をしっかり覚え、怖さも理解する必要があるかと思います。

### ●伊藤教育長

もう一点あります。ここは市長、教育委員の皆さんにもぜひ様々なアイデアをいただきたいなと思っていることではありますが、資料の4ページを開いていただけますか。横手市の児童生徒数の推移という表がございます。平成17年の市町村合併時には8,500人の小・中

学校児童生徒がおりました。当時、私も教育委員会事務局におり、それが10年後に2,000人減るというデータが実はございました。また、「各町村から統合の話が出ているのでよろしくお願ひしたい」という話もたくさんいただきながら、合併したわけです。10年で2,000人減るという数字は非常に驚愕した数字で、「一体どうすべきか」というのが合併時の教育委員会にとって最大の課題でありました。

ご存知の通り、統合計画を立てて計画的に統合を県内でもいち早く進めてきたのが横手市でありました。時が過ぎて令和6年度になると、平成17年度と比べると3,500人の減少になっています。平成17年から27年の10年間で2,000人、それから何年かして、また1,500人ほど減ったということで、合わせて3,500人減っているわけですが、実はこの後4、5年もすると、今の出生の状況からすると、またさらに減ることが予想されます。

では、平成17年当時のように学校を無くしていくかという話になった場合に、当時の学校数はある程度の数がありましたので、一定の統合が可能でありましたが、現状を考えると、例えば小学校に焦点を当てた場合、旧市町村にやはり1校は置いておきながら、地域の文化の象徴としての役割を持たせるべきではないかなと基本的には思っています。

しかし、人数が減るといふ現状もあり大きく考え方を変える必要があるだろう感じています。つまり、平成17年当時は、できるだけどの学校も差がないように一定の規模を保持しつつ、教育内容に差が出ないようにというのを大前提で考えた結果、統合計画が成立していました。大仙市や秋田市等、多少統合が遅れている地域も考え方はそこにあるような気がします。しかし、今これだけ時代が変化して考え方も変えなければいけない時代にあつて、どの学校も等しく同じような規模で同じようなことを目指すべきなのかというの、私は疑問を感じます。

つまり、横手市内には小さい学校や大きい学校が混在している方がいいのではないかと考えています。子どもによって、小さい学校でゆったりと過ごす選択や、大きい学校で切磋琢磨してガンガンやりたいといった環境を選ぶことができる、つまり選択肢を横手市としては豊かに持つ方が、これからの学校教育にとってはいいのではないかと考えています。

この総合教育会議のような場所で一定程度ご理解いただけるものか、どうか少し話題にさせていただければなと思っています。

## ●泉川教育委員

生徒数が減少するのは避けられないことだというのは分かります。また、学校統合について地域の感情等も考慮するととても難しいこと

だと思えます。高校は自分が行きたいところに行けますが、小学校を定めないのであれば、なし崩し的になってしまう気がして大変な課題があるような気がします。

### ●中村教育委員

地域で子どもたちを育てるというイメージを大事にするのであれば、少なくともその地域には学校があってほしいと思えます。

学校という建物があり、教室として使っていたところが空き教室になり、子ども達が使う教室が少ないのであれば、空き教室を地域の人が利用できるような、もっと地域の人と子ども達が近い存在になれるような学校にできるような気がします。家に子どもがいない方にとっては、よほど歩み寄らなければ、元々触れ合う機会が少ない。いきなり始めることはできないでしょうから、少しずつ準備をしていけたらいいのではと思えます。

### ●加賀谷教育委員

教育長のお話をお伺いして、学区という概念は考えていないとすれば、その土地に伝わる風習というものを大事にしながら、そこに集まってくる生徒を『休み』ではなく、『出席』の扱いにして、AIにはないみんなで作り上げるような考え方はいかがでしょうか。

例えば、かまくらみたいなものをみんなで作り上げるというよう。できたときの感動とか数字には出てこない部分が一番大事なのか

なと思います。学区をせつかく撤廃するのであれば、各地区に特色、特徴をもたせたそういう場所に好きなように手を挙げて行けばいいのかなと思います。

## ●二階堂教育委員

人口減少問題はやはり避けては通れないものだと思っており、現在の学校の児童数、出生数を鑑みれば、当然ながら規模の縮小、学校の統合、いろんなパターンを考えていくのが当然だと思っています。

しかし、旧市町村においての学校の立ち位置、こちらを一切なくしてしまうというものは、地域住民にとっては酷な選択肢の一つになるかと思います。それをいかしにして生かしていくかというのは、これからの考え方次第かとは思いますが、先ほどの教育長の意見も一つの選択肢、加賀谷委員の意見も一つの選択肢だと思います。

現状を考えていくと、現在私が住んでいる町内についてもそうですが、10年、20年、30年と経てば、おそらく3軒位しか残らない。この3軒で何ができると考えるという人数で工夫して生きていかなければならないという結論しか出ません。

どのような結論を持って進んでいくかというのは、早急に答えが出るのであれば、皆さん方の知恵を拝借しながら進めていけばいいのですが、それもなかなか答えが見つからない問題です。その時々においての考えのパターンで動いていくしかないと思います。

協力し合いながら少ない人数で、いかにして自分の生きがいを求めていくか、これからは厳しい時代になりますので、その辺のところは今日答えは絶対に出ないはずですが、延々とやっていっていいものかどうかそれも分かりません。いずれ結論を出さなければいけないことですが、これは1年、2年で答えが出るわけではないと思います。また、総合教育会議等でも共通のキーワードとしての協議をしていただければと思っております。答えのない答えとします。以上です。

### ●近江教育総務部長

ありがとうございました。冒頭申し上げた通りこの横手市教育ビジョン(素案)を教育大綱に位置づけて、この案のとおり進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

## (2) 令和8年度教育行政方針(案)について

### ●近江教育総務部長

続きまして、(2) 令和8年度教育行政方針(案)について を議題といたします。説明をお願いします。

### ●木村教育総務部次長兼教育総務課長

【[議題(2)資料]を基に説明】

### ●近江教育総務部長

令和8年度教育行政方針(案)について、ご質問、ご意見等があったらお願いします。

## ●二階堂教育委員

教育行政方針(案)についてこれで結構だと思います。

少しお話させていただければ、世の中の常識とされているものが果たして日本の国の教育の場において、学びの場として、教材として提示されているのかというと少し欠けているような気がします。

また、伝統文化という観点では今のかまぐらのやり方でいいのか。せっかく横手市に合併になったので大雄や増田でも半強制的にかまぐらを作るような行動があってもいいのではないか。それぐらいの住民の後押しですとか、熱意ですとか、対外的に見て「横手市では、何でこんなにかまぐらが好きなのであろう」と不思議がられるような、そういうのも観光のアイデアの一つになるのではないかなということをお伝えして私の考えとします。

## ●近江教育総務部長

ありがとうございます。連綿と続く教育行政の中にもそのような大胆な発想が必要ではないかというようなことで承りました。他の皆様はいかがでしょう。

## ●高橋市長

式典のときに国歌を歌わないとかはなしにしてもらいたいなと思います。校長先生の専権事項ではありますが、世界で一番短い国歌なのでタイムパフォーマンスが優れていないということはないと思いま

す。コロナ禍にタイパ重視で色々と削除したあげく国歌まで削除したということが横手市内でもありましたがそれは違うかと思えます。

我々の本来の拠り所というか国民国家たる象徴的なものも失ってしまうと、ここはどこの誰の国なのか忘れてしまいます。まさに民族の歴史を忘れた国家は滅びるということになってしまいます。

大事なものは、行き詰まると原点回帰は必ずあります。改革改善でやっていき、行き詰まった時に何をもとに出発したのだろうというところに問題を解決する糸口があったりするので足元をしっかりと見つめ、原点をしっかりと分かった上で、基礎応用を図ってほしいと思えます。基礎がしっかりしていると、何かことが起きたときに間違わないで方向性を示せるので大事にした方がいいと私は強く思います。

### ●近江教育総務部長

他に意見が無ければ、議題については終了します。

### ●田中総務課長

予定していた案件の協議が全て終了しましたので、以上をもちまして令和7年度総合教育会議を終了します。お疲れ様でした。

閉 会 午後 0時15分